

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	福島県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	福島県河沼郡河東町立河東中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	0	12	26
生徒数	113	138	131	0	382	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」を身につけさせるための個に応じた指導の工夫 ～指導方法・評価方法の工夫を通して～
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

対象学年	全学年
対象教科	国語科、数学科、英語科
設定の意図	従来取り組んできた県独自の学力向上事業やフロンティアスクール1年次の成果が生かせることと、習熟度別学習の実施が可能な指導体制であるため。

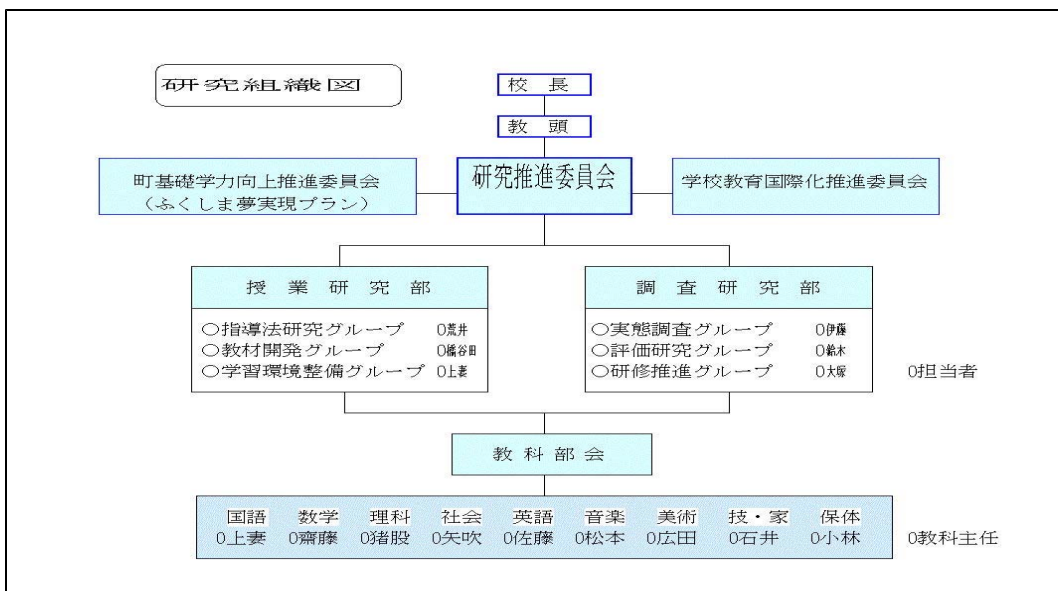
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「確かな学力」を身につけさせるための個に応じた指導の工夫 ～単元構成や学習形態の工夫を通して～(1年次)</p> <p>研究内容・方法 個に応じたきめ細かな指導の在り方 ア 個に応じた指導が有効にはたらく単元構成や領域の開発 イ 個に応じた指導形態や体制の工夫 ウ 個の実態把握やコース選択の工夫 エ 個に応じた指導と評価の工夫 選択教科における習熟度や興味・関心に応じた指導の在り方 ア 習熟度(聴・観コース)に応じた指導の工夫(国語・数学) イ 興味・関心(Speaking コース/Writing コース)に応じた指導の工夫(英語) 授業以外による学力向上の在り方 ア 「基礎学力向上の時間」の活用 イ 各種検定の奨励による自発的学習態度の育成 ウ 「マイ・チューター運動」の奨励</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 「確かな学力」を身につけさせるための個に応じた指導の工夫 ～指導方法・評価方法の工夫を通して～(2年次)</p> <p>研究内容・方法 個に応じたきめ細かな指導の在り方 ア 少人数の指導体制の工夫・改善(コース<習熟度>別指導・TT指導) イ 評価活動を生かした指導法の工夫・改善 ウ 発展的・補充的な学習の教材開発 選択教科における個に応じた指導の在り方 ア 興味・関心や能力・適性に応じた多様なコースの開設 イ 興味・関心や能力・適性に応じた学習内容や指導法の工夫 授業以外による学力向上の在り方 ア 「マイ・チューター運動」の実施による自発的学習態度の育成や各種検定試験の奨励 イ 朝自習や家庭学習による学力の伸長や読書による読解力の育成</p>
--------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 「確かな学力」を身につけさせるための個に応じた指導の工夫 ～指導と評価の一体化をめざして～（3年次）</p> <p>研究内容・方法 個に応じたきめ細かな指導の在り方 選択教科における個に応じた指導の在り方 授業以外による学力向上の工夫・改善</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

個に応じたきめ細かな指導の在り方について

「確かな学力」を身につけさせるために、学習指導要領が示す目標に照らした適切な評価活動や個に応じた指導の工夫・改善を研究実践していく中で、指導と評価の一体化を目指し、「基礎・基本の確実な定着」と「学習指導の改善」を図ることができた。

- ア 事前評価活動を通して、その評価結果にもとづいた指導計画の修正や指導法の工夫・改善を図ることができた。
- イ 過程評価活動を通して、指導した学習内容の定着の様子を適切に評価し、その結果によって、追指導や発展的な学習課題を与えることができた。
- ウ 自己評価カードを活用したことにより、自己の習熟の程度に気付き、自分を見つめ直すきっかけとなった。さらに、その後の学習に意欲的に取り組むようになった。
- エ 発展的・補充的な教材・教具を工夫したことにより、関連性や系統性、発展性に配慮した学習内容が精選され、生徒が見通しや目標を持って主体的に学習に取り組むようになった。
- オ 複数の指導者の協同体制により、コース別学習やT T指導を指導計画に位置づけたため、効果的な指導体制で個に応じた指導を展開することができた。

選択教科における個に応じた指導の在り方について

すべての教科・学年にわたって授業時数の上限を設定したことにより、学習内容を充実させることができた。生徒は自分の能力や適性、興味・関心に応じたコースにおいて、主体的に学習に取り組んでいる。

- ア 国語科や数学科では、他教科教員の協力により、コース数を増やすし、少人数学習を行うことができた。

イ ガイダンスの機能を充実させたため、生徒の興味・関心に応じた適切な教科やコースを選択させることができた。

ウ 3学年だけでなく1・2年生においても、小集団を編成したり、既習事項の発展・補充学習となるような内容を取り上げることができ、個の能力や興味・関心に応じた指導をすることができた。また、学習内容に明確な特徴を持たせたため、同じ目標をもった好ましい学習集団が形成され、どの教科においても、意欲的に活動する姿が見られた。

授業以外の学力向上の在り方について

休み時間や放課後・休業中など、授業以外の時間においても生徒の願いに応じて適切に支援することができ、基礎・基本の定着や自発的な学習態度の育成が図れた。

ア 「マイ・チューター運動」を奨励することで、休み時間に生徒自ら質問する姿が多く見られるようになった。

イ 各種検定試験においては、選択教科や放課後の学習会を実施することにより、受験者数が増えている。また、現在学習している内容よりも進んだ級を受験する生徒が増えている。

ウ 朝自習と家庭学習を意図的に連動させたことは、自主学習の習慣化や基礎学力の定着に効果的であった。

2. 今後の課題

個に応じたきめ細かな指導の在り方について

ア 単元の内容を更に綿密に構成し、教科の特質に応じた指導形態や発展・補充的な学習内容を指導計画に位置づけていく必要がある。

イ 過程評価活動では、明確な到達目標の設定や目標に照らしたワークシートなどを工夫し、適切な評価活動の在り方を追求しながら、目標を達成した生徒への課題の与え方や達成できない生徒への個別指導の充実が必要である。

ウ 指導体制を工夫しながら実践を進めたが、教員数の不足や打ち合わせ時間の確保が困難であった。今後は、多様な個人差に応じた指導の個別化や学習の個性化が図られるように、実効的なTT指導について研究する必要がある。

エ 評価に関わる課題として、評価活動を単元の指導計画に位置づけて、具体的な評価方法や評価の正当性について研究を進める必要がある。

選択教科における個に応じた指導の在り方について

ア 多様な個の能力や興味・関心に応じるために、すべての教科で、既習事項の発展・補充的な学習内容を取り上げたが、更に学習内容や学習形態の充実を図る必要がある。

イ 選択教科の評価については、各教科部会での研究や資料の累積による評価活動を充実させる必要がある。

授業以外の学力向上の在り方について

ア 朝自習を家庭学習と一体化させることにより、さらに、自主学習の習慣化を図る必要がある。

イ 生徒一人一人のさらなる能力の伸長を図るために、「マイ・チューター運動」を通し、各種検定試験等の奨励をしていく必要がある。

学力把握のための学校としての取組

1. 学習全体や各教科におけるアンケートによる実態把握
2. 単元テストによる実態把握
3. 定期テストによる実態把握
4. 学力向上の時間の確認テストによる実態把握
5. N R Tによる学力の実態把握

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 学力向上フロンティアスクール事業公開授業研究会及び講演会の実施	
(1) 日 時	平成15年10月3日(金) ・ 開会行事 13:00 ~ 13:30 ・ 公開授業 13:40 ~ 14:30 (1年-数学、2年-国語、3年-選択英語) ・ 分科会 14:45 ~ 15:15 ・ 講演会 15:25 ~ 16:25
(2) 場 所	福島県河沼郡河東町立河東中学校
(3) 目 的	本校は、昨年度より文部科学省の「学力向上フロンティア事業」の指定を受け、研究主題に「『確かな学力』を身につけるための、個に応じた指導」を掲げ、その2年次として『指導方法・評価方法の工夫を通して』を副主題に定め実践研究を進めている。今回の公開授業研究会に際して、本校の研究実践についての指導助言とフロンティアスクール事業の今後の展望について講義を頂き、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実に図るため。
(4) 講 師	文部科学省教科調査官 河野 庸介 先生 教育事務所関係指導主事・三町村学校教育指導員
(5) 参加者の対象	会津地区小中学校及び県内学力向上フロンティアスクール指定校
(6) 講演内容	ア 研究授業及び本校の研究実践に対する指導助言 イ 演題「確かな学力の向上をめざして」
2. HPによる研究成果の普及 平成14年度研究概要の掲載	

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無